



関西国際空港も大きな被害

不安視する「復旧が長引けば…」 運送事業者

関西の玄関口とも言われる関西国際空港も台風で多大な被害を受けた。また、阪神港でも暴風・高潮で大きな被害を受け今後の物流への影響を不安視する運送会社も多い。

すべて回収されておらず、船舶の航行に影響を与えている。さらに現在、阪神港での機能が低下していることから、地方港へのコンテナの分散も考えられ、阪神大震災で一度、コンテナが離れて地方港にコンテナをシフトした際にも、なかなかコンテナが神戸港に戻ってこなかった経験もあり、1日も早く復旧してコンテナを阪神港に留めることが必要では」と願う。

また、阪神港で海コン輸送を展開するB社は「今回の台風被害により港が機能していない状態で、中小・零細企業である我々の運送が1か月も2か月も停止してしまえば、最悪の場合、倒産も考えられる。港でのコンテナの状態を不安視する同業者も多く、余力がなければ深刻な状態に陥るのでは」と語る。

西国際空港。生鮮食品の空輸貨物を輸送するC社は、「一部の会社では、空輸貨物を関空分について1か月停止する」と聞かされている。関空向け貨物は成田国際空港や中部国際空港セントレアなどに空輸され、そこから陸路での輸送が行われている」と説明。「当社も元々関空で生鮮食品を輸送していたが、今は成田やセントレアからの空輸荷物を陸路で輸送してきた車両から、積み替えて配送を行っている。しかし積み残しも非常に多く、関東や中部でも人手不足から車両確保に困難な状態。さらに関西国際空港は一部の滑走路が使用できずあり、国内外ラインも運航させるとしているが、連絡橋がタンカーの衝突で走行不能である

ことから、橋桁を修理するにも大掛かりな工事が必要で、物流減少などについて業界関係者は不安視している」と語った。